

5. 川治ダム貯水池（八汐湖）

5.1 川治ダム貯水池の概要

川治ダムは、利根川総合開発の一環として鬼怒川に計画されたダムである。鬼怒川上流部には、五十里ダム、川俣ダム、川治ダムの3つの多目的ダムがあり、川治ダムは昭和45年に工事が始まり、昭和58年に完成した3ダムの中で最も新しいダムである。川治ダムは洪水による下流河川の氾濫を防ぐための洪水調節、農業用水や都市用水の供給を目的につくられた国内で第4位の高さを誇るアーチ式コンクリートダムである。

また、川治ダムは昭和48年に施行された水源地域対策特別措置法の適用を受けた全国で第一号のダムである。

(出典：川治ダムの概要（鬼怒川ダム統合管理事務所 web）を編集
<http://www.ktr.mlit.go.jp/kinudamu/dam/intro/kawaji.html>)

川治ダムの概要は表5.1、川治ダムの諸元は表5.2、川治ダムの位置図は図5.1に、川治ダムの流域概要図は図5.2に示すとおりである。

表 5.1 川治ダムの概要

(1)ダム名称	川治ダム
(2)管理者	関東地方整備局
(3)ダム所在地	栃木県日光市川治温泉川治
(4)水系名・河川名	利根川水系鬼怒川
(5)水域	川治ダム貯水池（八汐湖）（全域）
(6)集水面積	323.6(km ²)
(7)環境基準類型	湖沼AA（平成18年度までの暫定目標 COD2.0mg/L） 湖沼II（平成18年度までの暫定目標 全窒素 0.32mg/L 全燐 0.021mg/L）

出典：ダム便覧2006（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jdf/Dambinran/binran/TopIndex.html>）

表 5.2 川治ダムの諸元

(1)堰長	320(m)	(2)堤高	140(m)	(3)総貯水容量	83,000(千m ³)
(4)有効貯水容量	76,000(千m ³)	(5)サーチャージ水位		616.0	(EL m)
(6)年平均滞留時間*	243(日)				

※年平均滞留時間=有効貯水容量/年平均放流量（それぞれH5～H17の滞留時間を求めて平均を算出）

出典：ダム便覧2006（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jdf/Dambinran/binran/TopIndex.html>）



注) 利根川ダム総合管理事務所資料(<http://www.tonedamu.go.jp/tonegawa/index.html>)を元に国土地理院の数値地図 200000 (地図画像) を用いて作成した。

図 5.1 川治ダム位置図

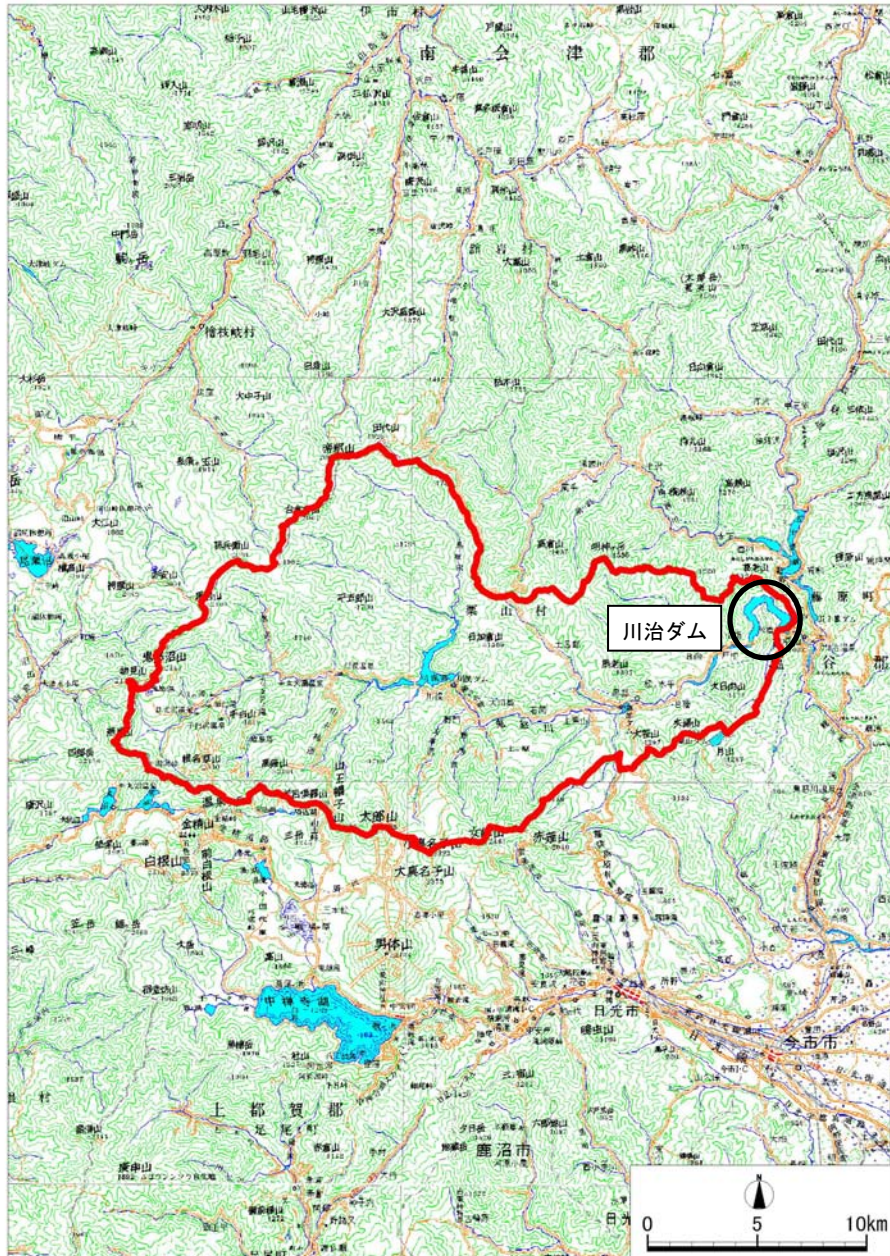


図 5.2 川治ダム流域概要図

5.2 川治ダム流域環境基準の類型指定状況

川治ダム流域の水域類型指定状況は、表 5.3及び図 5.3に示すとおりである。

表 5.3 川治ダム流域の水域類型指定状況

水域名称	水域	該当類型	達成期間	指定年月日	
利根川水系の鬼怒川	川治ダム貯水池(川治ダム湖)(全域)	湖沼AA ^{注1} 湖沼II ^{注2}	イ	平成 15. 3. 27	環境省告示
利根川水系の鬼怒川	川俣ダム貯水池(川俣湖)(全域)	湖沼A 湖沼II*	イ イ	平成 15. 3. 27	環境省告示
	鬼怒川(1) (大谷川合流点より上流で(川治ダム貯水池(川治ダム湖)(全域)に係る部分に限る。)及び(川俣ダム貯水池(川俣湖)(全域)に係る部分に限る。)を除く)	河川AA	イ	昭和 48. 3. 3	環境庁告示

注1)平成18年度までの暫定目標COD2.0mg/L

注2)平成18年度までの暫定目標全窒素0.32mg/L、全リン0.021mg/L

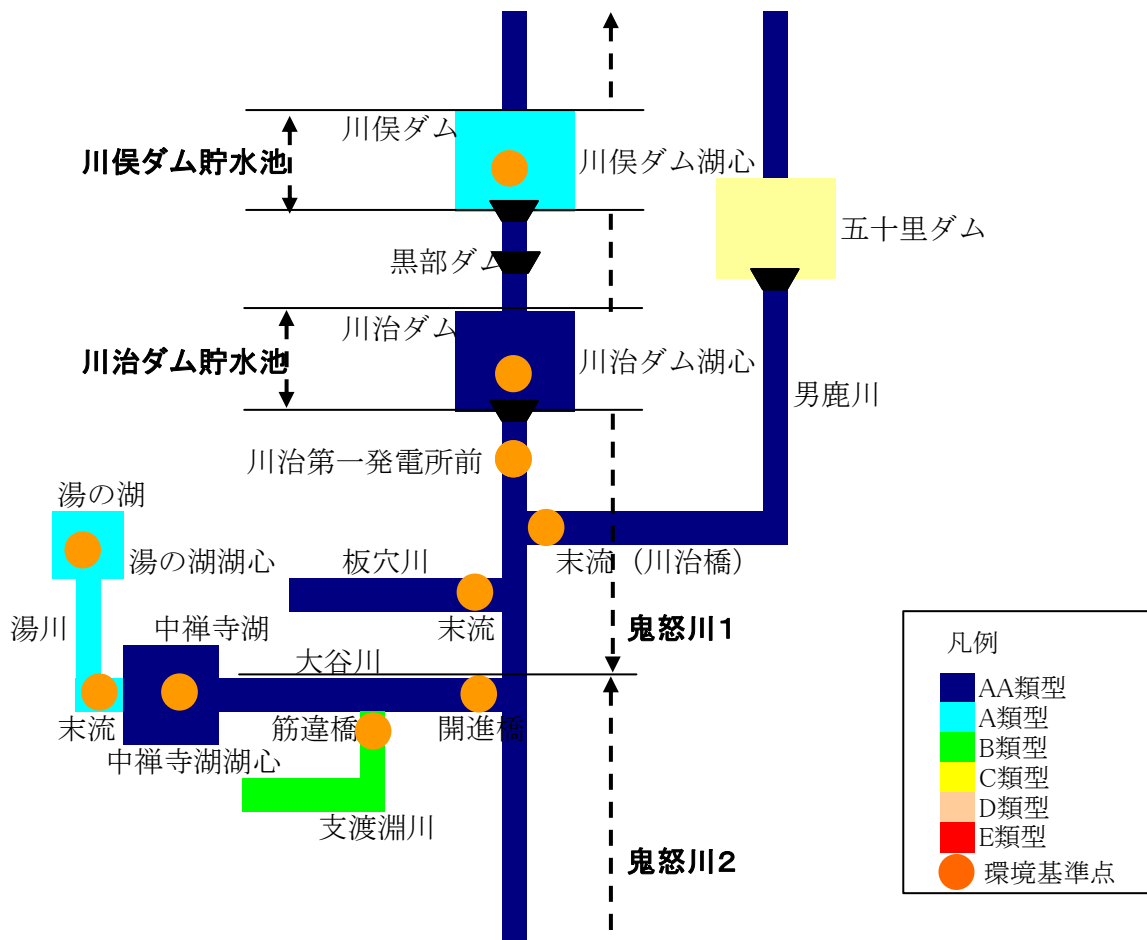


図 5.3 川治ダム流域の水域類型指定状況図

5.3 川治ダム貯水池の水質状況

川治ダムの水質測定地点は、図 5.4に示すとおりである。川治ダムの水質測定地点における水質 (pH、DO、SS、大腸菌群数、BOD、COD、T-N、T-P) の推移は、表 5.4及び図 5.5に示すとおりである。



国土地理院 地図閲覧サービスの2万5千分の1地図：川治を用いて編集
出典：独立行政法人国立環境研究所 環境数値データベース 公共用水域水質測定点データ(2004年)の緯度経度情報より作成

図 5.4 川治ダムの水質測定地点